氏　　名	難　波　真　太　郎
授与した学位	博　　士
専攻分野の名称	医　　学
学位授与番号	博甲第　5201　号
学位授与の日付	平成２７年　６月３０日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻 （学位規則第４条第１項該当）
学位論文題目	Effectiveness of Extending Treatment Duration in Therapy with Pegylated Interferon and Ribavirin for Genotype 2 Hepatitis C Virus Infection (genotype2型C型慢性肝炎に対するﾍﾟｸﾞｲﾝﾀｰﾌｪﾛﾝとﾘﾊﾞﾋﾞﾘﾝ併用療法の治療期間延長の有効性)
論文審査委員	教授　加藤 宣之　教授　千堂 年昭　教授　山田 雅夫

学位論文内容の要旨

ｹﾞﾉﾀｲﾌﾟ 1 型 C 型慢性肝炎ではﾍﾟｸﾞｲﾝﾀｰﾌｪﾛﾝとﾘﾊﾞﾋﾞﾘﾝ併用療法(抗ｳｨﾙｽ療法)の反応性に対応して治療期間を延長することによりｳｨﾙｽ学的著効(SVR)の改善することが知られているが、ｹﾞﾉﾀｲﾌﾟ 2 型 C 型慢性肝炎では治療期間延長の適応と有効性に関しては一致した見解が得られていない。

我々は抗ｳｨﾙｽ治療によるｳｨﾙｽ消失時期と薬剤投与率を基準にしたｹﾞﾉﾀｲﾌﾟ 2 型 C 型慢性肝炎の治療期間延長の有効性を検討した。ｳｨﾙｽ消失時期が 5 から 8 週目で薬剤投与率が初期目標値の 80%未満の症例では治療期間の延長により有意に SVR の改善が認められた。一方でｳｨﾙｽ消失時期が 4 週以内または 9 週以降の症例では薬剤投与率に関わらず延長投与による SVR の改善は認めなかった。

ｳｨﾙｽ消失時期と薬剤投与率がｹﾞﾉﾀｲﾌﾟ 2 型 C 型慢性肝炎治療の適切な治療期間の決定に有効な因子である可能性が示唆された。

論文審査結果の要旨

本研究では、2005 年から 2011 年の間に岡山大学病院及び関連施設にて抗ウイルス療法（ペグインターフェロンとリバビリン併用療法）を受けたゲノタイフ 2 型の C 型慢性肝炎患者 306 例を対象にして、抗ウイルス治療によるウイルス消失時期と薬剤投与率を基準にした治療期間延長の有効性について検討した。その結果、標準投与群（239 例）と延長投与群(67 例)のウイルス学的著効率(SVR)はそれぞれ 79%と 73%となり両群間に有意差は認められなかったものの、ウイルス消失時期が 5 から 8 週目で薬剤投与率が初期目標値の 80%未満の症例では治療期間の延長により有意に SVR の改善が認められることが分かった。本研究の結果、ウイルス消失時期と薬剤投与率がゲノタイプ 2 型の C 型慢性肝炎治療の適切な治療期間の決定に有効な因子であることを明らかにした点において価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。